

令和5年度 新人戦

試合マニュアル

令和6年3月9日(土)

関西学生弓道連盟

目次

I. 実施要項（一部省略）	2
II. 競技に関する詳細	4
III. 試合日までの流れ・事前準備	5
IV. 試合当日の流れ	6
V. トラブル対策	11
VI. 各種留意事項	12
VII. 各種 Google フォーム	15

実施要項（一部省略）

令和6年3月9日

加盟校各位

関西学生弓道連盟
副委員長 田口 直輝

令和5年度新人戦 実施要項（暫定版）

平素より本連盟の活動にご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。表題の件、下記の通りお知らせ致します。なお、令和5年新人戦の不参加・棄権による不利益は一切生じません。

記

1. 主催

- ・関西学生弓道連盟

2. 期間

- ・令和6年3月17日（日）～4月21日（日）の各週日曜日（予備週を含む）

3. 実施形式

- ・対面開催

4. 会場

- ・本連盟加盟校

5. 大会役員

- ・大会委員長 田口 直輝（大阪公立大学中百舌鳥支部） 連絡先 080-2531-5188

6. 参加資格

- ①全日本学生弓道連盟に部員登録していること
- ②関西学生弓道連盟に部員登録していること
- ③関西学生弓道連盟の加盟校に所属していること
注…部員登録について、学年の登録ミス、部員登録申請がしていない場合は失権となります。全日学連、関西学連総務長へ部員登録の届け出をして下さい。
- ④新人であること（ただし、特例選手として認められた旧人の選手は出場可能）
- ⑤本連盟規約を遵守できること
- ⑥①～⑤の条件を全て満たす選手

7. 出場資格

- ・ 6 の参加資格を満たす選手

8. 競技規則

- ・ 本連盟規約・本マニュアルによる。

9. 競技方法

- ・ 関西学生弓道連盟規約による。

10. 表彰

- ・ 優勝校、準優勝校、第3位校を表彰する。
- ・ 新人戦十傑（規定射数は36射以上）並びに試合毎の皆中者を表彰する。

11. 問い合わせ先

- ・ 副委員長 田口 直輝

Mail : kangakuren.fukuincho@gmail.com

TEL : 080-2531-5188

以上

競技に関する詳細

- ・36 cm 星的／射距離 28 m／原則対面にて実施

- ・6人立ち又は3人立ち／制限時間なし（但し、人数が不足している場合は5名でも出場可能）

※3人立ちの場合の試合の流れ（男子リーグ戦と同様、一立毎に先攻後攻を入れ替え）

①A校前立→②B校前立→③A校後立→④B校後立→⑤B校前立→⑥A校前立（以下同様）

- ・矢数は一射手一立十二射とする。但し、ブロック決勝戦及び決勝戦は一射手一立二十射とする。

- ・試合校は立順を書面で審判校・相手校に提出し、審判は氏名を省略することなく、結果報告書に記入すること。

- ・立終了毎の休憩時間は原則なしとする。やむを得ない場合に限り、試合校と審判校との協議の上、休憩時間を設けても構わない。

- ・各立終了後、的中確認を行うこと。ただし、行射中にトラブルが生じた場合は随時の中報告を行う(的中報告に関してはp11「トラブル対策」を確認すること)。

- ・立射、坐射の指定は行わない。

I. 試合当日までの流れ

- ① 試合翌日の月曜日中に、次週の試合案内（対戦カード・道場提供校・審判校・試合の際の数的数等）の暫定版を公表。
- ② 各加盟校は、試合案内暫定版について問題がないかご確認下さい。
問題がある場合は、月曜日の 21 時まで副委員長メールアドレスまでご連絡下さい。
問題がない場合は、確認メールを送信して頂く必要はございません。
- ③ 確定次第、試合案内確定版を公表。
暫定版から変更されている場合があるため、確定版もご確認下さい。
- ④ 各試合における道場提供校は、木曜日までメールを送信すること。（詳細は II. 事前準備にて記載）

II. 事前準備

1. 道場提供校は試合案内確定版を確認後、試合 3 日前までに以下の内容を記載したメールを、試合校及び審判校の主将（責任者）に送信すること。

○メール記載内容

- ① タイムスケジュール（詳細は IV. 試合当日にて記載）
- ② お迎えの場所（それまでの交通手段・所要時間を含む）
- ③ 使用可能な付け矢的の数、及び巻藁の基数

試合校の一方が道場提供校の場合は相手校が使用可能な数について、審判校が道場提供校の場合は各校が使用可能な数について記載

- ④ その他必要事項（更衣場所の有無、矢声・鳴きの有無など）

2. 審判校は試合 3 日前までに審判員登録の Google フォームに回答、及び主審・副審の連絡先（電話番号とメールアドレス）を記載したメールを、審判を行う試合校両校へ送信すること。

3. 試合当日に試合校が用意するもの

- ・立順届 2 通（相手校用と審判校用）。三つ巴決勝戦は 3 通
- ・立順変更届（必要に応じた枚数）

4. 試合当日に審判校が用意するもの

- ・令和 5 年度新人戦審判マニュアルに記載

※メールを受信した大学（試合校と審判校の両方）は必ず返信をすること。またメールを送

信及び返信する際には、CC に総務のメールアドレス(kangakuren.soumu@gmail.com)を
忘れずに入れるようお願いいたします。

Ⅲ. 試合当日

1. タイムスケジュール

【試合校の一方が道場提供校である場合】

- 10：00 お迎え
- 10：10 挨拶、交渉
- 10：40 付矢開始
- 11：50 審判校お迎え
- 12：00 審判校挨拶（両試合校の代表者と審判員が挨拶）
- 12：10 付矢終了、的替え・持ち的確認
- 12：30 試合開始

【審判校が道場提供校である場合】

- 9：50 試合校 A お迎え
- 10：00 試合校 A と審判校挨拶、試合校 B お迎え
- 10：10 試合校 B と審判校挨拶、試合校両校挨拶、交渉
- 10：40 付矢開始
- 12：10 付矢終了、的替え・持ち的確認
- 12：30 試合開始

※審判兼道場提供校である場合、審判員以外に、お迎え・的替え・試合中の的立て直し等を行
う人数を確保して頂きますようお願いいたします。

※決勝戦は 12 時開始のため、上記のスケジュールを 30 分ずつ前倒しして下さい。

※道場提供校の各加盟校において、お迎えの場所から道場までの距離等はそれぞれ異なる
と思いますので、上記のスケジュールから少々変更して頂いても問題ございません。

2. 交渉

- ・道場提供校が審判校の場合は、審判員の方も交渉に参加すること。
- ・道場使用の際の注意事項、付け矢の際の矢取りの流れ、安全確認の方法、矢声・鳴きの有
無、その他確認事項を各校の代表者同士で確認すること。

3. 付矢

- ・時間は1時間半。
- ・試合を3的展開で行う場合も、付矢の際は可能な限りの的を立てること。
- ・付矢の際、道場提供校は新的のビニールのもしくは紙的を立てること。
- ・矢の紛失及びその他トラブルを防ぐため、矢取りは自大学のもののみ行うこと。

4. 的替え・持ち的確認

- ・的替えは、道場提供校の加盟校が行うこと。
 - ・的替えの際は、新的の紙的を立てること。
 - ・的替え終了後、以下の流れで持ち的確認を行うこと。
 - ①道場提供校による的立てが終わる。
 - ②道場提供校が的観を行う。
 - ③上座の大学が持ち的確認をする。(ここでの的に問題があればその的のみ立て直す)
 - ④下座の大学が持ち的確認をする。(ここでの的に問題があればその的のみ立て直す)
 - ⑤上座の大学が(④で立て直した)問題のある的のみを持ち的確認する。
 - ⑥下座の大学が(⑤で立て直した)問題のある的のみを持ち的確認する。
- ※問題が無ければ⑤⑥は飛ばす。試合校両校が合意すれば終了。
- ※三つ巴決勝戦の場合は、上座と下座の間に中座が同様の手順を踏む。
- ※審判校による持ち的確認は必要性が低いため廃止する。(平成28年度決定事項)

5. 試合開始

- ・主審は、整列の号令前に両校責任者(主将)に試合開始の了承を得る。

「少々お時間が早いようですが、試合を始めさせていただいてよろしいでしょうか。」

「お時間となりましたので、試合を始めさせていただいてよろしいでしょうか。」
 - ・試合の号令(第一戦からブロック決勝戦まで)
- 主審：「両校ご整列願います。」
- 主審：「只今より、令和5年度新人戦第〇戦、〇〇大学対〇〇大学の試合を執り行います。試合に先立ちまして、両校主将は、立順の交換ならびに提出をお願いします。」
- ※この際、審判員にも立順を提出すること。審判員は立順届を受理した後、審判推薦状を試合校両校に提出すること。
- ※立順における学年は新学年で記入し、選手名の横にフリガナを振ること。
- 主審：「試合の先攻、後攻は規約により、矢振りによって決定させていただきます。両校主

将はじゃんけんをお願いします。」

(副審は、じゃんけんの後、矢筒から矢を少し出して、甲矢と乙矢の確認をじゃんけんで勝った方からしてもらう。両校の確認が終わったら、一旦、矢を取り出し、今度は筈を下にして矢を入れ、蓋をする。ついで、矢筒を背中に回し、よく振る。その後、矢を段違いに少し出し先程のじゃんけんで勝った方の大学から引いてもらう。この際、甲矢を引いた方が先攻、乙矢を引いた方が後攻となる。)

※矢振りの方法について一例として提示致しますが、各校の行い方に基づいて頂いて問題ございません。

両校主将は順番を宣言する。

主審：「只今の矢振りの結果、先攻〇〇大学、後攻〇〇大学と決定いたしました。尚、この試合は、全日本並びに関西学生弓道連盟規約に則って執り行います。両校、礼。」

・試合の号令（三つ巴決勝戦）

主審「各校、ご整列願います。」

主審「只今より、令和5年度新人戦決勝戦、〇〇大学対〇〇大学対〇〇大学の試合を執り行います。…（以下通常の試合と同様。）」

主審「試合の先攻・中攻・後攻は、規約により抽選によって決定させていただきます。各校主将はじゃんけんをお願い致します。」

(じゃんけんで勝った順に封筒を引く。)

(各校主将は順番を宣言する。)

主審「只今の抽選の結果、先攻〇〇大学、中攻〇〇大学、後攻〇〇大学と決定致しました。なお、この試合は、全日本並びに関西学生弓道連盟規約にのっとりて執り行います。各校、礼。」

(封筒と紙は、同中競射に備えて回収しておく。)

6. 試合中

○試合の流れ

①射位に入り、行射開始。

・審判員は記録用紙に的中を随時記録する。この際決して誤りが生じないように注意すること。

②行射終了

③的中確認

i) 行射を終えた試合校又は道場提供校の合図（安全確認等）で、的前審判が的前に入る。

ii) 主審「的中確認をお願いします」。的前審判「はい」

iii) 的前審判「大前〇中です」。主審「はい」又は「もう一度確認をお願いします」

※これを「落」まで行う

※この間、審判員の方は記録用紙の記載内容と的中確認の内容を照合する。

④矢取り

⑤矢取り終了次第、次の立開始。(①に戻る)

○選手交代について

・選手交代は5射目から可能。

・選手交代は人数無制限であるが、立位置の変更や選手交代後の再出場は認めない。

・選手交代する際、各校は立の交代前に立順変更届を審判員及び相手校に提出すること。通知されていない場合、判明次第当該選手の引いた射は失中となります。

※原則、審判員からの選手交代通知の要求はしないこととする。

○的中確認の監査について(規約第64条より各加盟校は原則として監査員を配置すること)

①監査は疑問を感じた時に的中確認を止めることができる。

②監査が的中を的前審判に再確認させる権利は矢取りを行う人が矢に触れるまでとする。

③審判員は返事をする前に監査を一度確認すること。

例(2的に問題がある場合)

的前審判:「2的、3中です」

監査:手を上げながら的前審判に確認の中断を指示し、その後主審に対して「再確認します。」と声をかける。

主審:「はい」

的前審判:「2 的、皆中です」

主審:「はい」

その後確認を続ける。

7. 試合終了時

・整列の号令前に、各校責任者(主将)に試合結果を確認する。

主審「試合の結果は、黒板(記録用紙でも可)の通りでよろしいでしょうか。」

主審「結果送信フォームに添付しますので、お立ち合いをお願いします。」→フォーム送信

・試合終了の整列

(第一戦からブロック決勝戦まで)

主将「両校ご整列願います。」

主審「只今の試合の結果、先攻〇〇大学〇中、後攻〇〇大学〇中、よって〇〇大学の勝ちとします。両校校、礼。」

(三つ巴決勝戦)

主審「各校ご整列願います。」

主審「只今の試合の結果、先攻〇〇大学〇中、中攻〇〇大学〇中、後攻〇〇大学〇中、よって(順位の宣言 1 位・2 位・3 位)とします。各校、礼。」

○同中競射の場合

- ・整列の号令前に、両校責任者（主将）に試合結果を確認する。

主審「試合の結果は、黒板（記録用紙でも可）の通りでよろしいでしょうか」

- ・同中競射告知の整列

主審「両校ご整列願います。」

主審「只今の試合の結果、先攻〇〇大学〇中、後攻〇〇大学〇中、よって同中のため、只今より、一手競射を行います。競射の先攻後攻は規約により、矢振りによって決定させていただきます。…（以降の手順は試合開始時と同じ。）」

※一手競射にて決着がついた場合は、試合終了後の手順に以降し、決着がつかなかった場合は、一本競射を行う。この際先攻・後攻は、先の一手競射の先攻・後攻を入れ替えて行う。以降、一回ごと交代し、勝敗が決定するまで、一本競射を繰り返す。（このとき毎回、両校を整列させてその旨を伝える。）

※三つ巴の場合は、試合開始時と同様に封筒を順に引いて一手競射の先攻・中攻・後攻を決定する。以降は下記の通り順番は一つずつずらして行う。

（一手競射：先攻A校・中攻B校・後攻C校→一本競射 1 回目：先攻B校・中攻C校・後攻A校→・・・）

- ・同中競射を、通常の試合同様に行う。
- ・同中競射終了後、整列の号令前に、両校責任者（主将）に試合結果を確認する。

主審「試合の結果は、黒板（記録用紙でも可）の通りでよろしいでしょうか。」

主審「結果送信フォームに添付しますので、お立ち合いをお願いします。」→フォーム送信

- ・試合終了の整列

主審「各校ご整列願います。」

主審「只今の試合の結果、先攻〇〇大学〇中、後攻〇〇大学〇中、よって〇〇大学の勝ちとします。各校、礼。」

※競射においては立ごとに選手交代が可能。

○試合終了時における審判の仕事

①試合結果報告書を、結果報告フォームに送信する。

試合終了後整列の号令前に、各試合校代表者 1 名の立ち合いの下、フォームの送信を行うこと。

②審判意見書を、審判意見書提出フォームに送信すること。

審判意見書は必ず提出する義務がある。（平成 2 年度主将会議にて決定）

※未記入のものは意見が記述されていないため、意見とは認めない。「特になし」はそれ自体が意見であるため、問題ございません。

③皆中者の報告

結果報告フォーム内に、十二射皆中者・二十射皆中者の名前を記入する欄があるため皆中者がいる場合必ず記入すること。

※**試合結果報告書と審判意見書の郵送は不要とする**。そのため、フォームに記載した内容が正式記録となりますので送信前に誤りがないか必ず3校（決勝戦の場合は4校）で確認した後、審判が送信するようにお願いいたします。

※結果報告書は、大会終了まで必ず保管頂きますようお願いいたします。

※フォーム回答後、記載内容の誤り等が判明し、結果報告書を修正した場合は、必ずフォームから再提出して頂きますようお願いいたします。

※例年印鑑の押し忘れが多いため、記載事項に漏れがないか十分に確認すること。

IV. トラブル対策

- ・大会中に発生したトラブルに関しては、原則、審判がトラブル解決に努めること。解決できないと判断し、本部の指示を仰ぐ場合は、その決定事項に対して原則異論は認めない。
- ・大会中に発生したトラブルに関して、本部にする相談・報告は審判校が行うこと。審判校を介さない相談・報告には対応しないため留意すること。
- ・新人戦に関する問い合わせは本部連絡先一覧を確認すること。

○行射中、的を立て直す必要があると認められた場合

- ①当該校が審判に的の立て直しを要請する。
- ②審判は、落の行射で当該校の立ちの進行を止める。
- ③当該校は、その的についてのみの的中確認を行う。

的前審判：「確認します。」

主審：「お願いします。」

的前審判：「○的○中です。」（的に中っている数を伝える。）

主審：「はい。結構です。」

- ④試合校が確認した的の矢を抜く。
- ⑤道場提供校が的の立て直しを行う。
- ⑥持ち的確認を行う。

⑦行射再開

※立ち終了後の的中確認では、的をかけ直す前の的中数と的をかけ直した後の的中数の合計した数値で確認を行う。

- ・試合校による立の中断は認められず、また審判は試合校からの申請がない限り、立の進行に介入する必要はない。立の途中で的中確認の必要があれば行う。
- ・矢が的などに掛かり危険な状態にある場合、当該校からの要請があれば審判は落の行射で一旦立ちの進行を止め、矢を取らせる。的中に関係する場合は確認を行い、審判に的中を伝える。その後、立ちを再開させる。
- ・矢を番えるときに筈が割れた場合、打ち起こしを開始する前であれば矢の交換は可能。(規約第 84 条)
- ・失矢した場合、打ち起こし開始前であれば番え直しは可能。
- ・掃き矢の判定は、審判の判断に委ねられる。しかし、審判が判断できない場合は、看的の出した判定が正式記録となる。
- ・立ちと立ちの間が不必要に長く、試合が円滑に進行しないときは、当該校に注意を与えること。
- ・追い越し発射が行われた場合、当該選手の引いた矢は失中とする。

V. 各種留意事項

○選手について

- ・原則として審判の指示に従うこと。(規約第 54 条)
- ・全日本学生弓道連盟部員登録及び令和 5 年度後期部員登録を完了していること。なお部員登録が済んでいない選手が出場した場合、判明次第、失中とするので、十分に注意すること。

○審判について

- ・主審は原則、2 回生以上とする。
- ・試合終了後は、結果報告書及び審判意見書を送信すること。
- ・時間厳守であること。
- ・不明な点、トラブルが生じた場合は必ず審判が本部に連絡し、確認・報告をすること。(罰則や失中に関係することがあるので注意して下さい。)

○指導に関して

- ①射手が打ち起こして後離れを行うまでを「行射中」とし、何人も以下の行為を禁止する。
 - ・射手の狙いを見ること。
 - ・射手の身体に触れて指導すること。
 - ・射位より前に出ること。
 - ・審判から射手が死角になる位置に出ること。
- ②射手が射位にあるとき、介添え以外のものによる一切の指導を禁止する。
- ③①・②の規定に反した場合、相手校主将は審判に抗議する事ができる。

- ・審判がその抗議を正当と認めた場合、当該選手の引いた矢を失中とする。

○介添えに関して

- ①人数は一立につき二名以下に限る。
- ②指導法は上記(指導に関して①)に反しない範囲で各校に任せる。
- ③待機場所は原則、本座とする(介添え以外と区別が出来ればよい)。
- ④狙いと立ち位置は別物と考え、射手の行射前に限り、介添えが立ち位置を見ることは可能とする。また、この際に、選手の身体や弓具に触れることは禁止する。

※上記以外で、審判が判断しかねるものについては、本部に連絡し、指示を仰ぐこと。

○人数の関係による的前監査(的前審判)業務不可能の場合について

各大学での人数により、的前審判(的前監査)の業務を行える人がいない大学の主将は、試合の3日前までに、大会委員長にその旨を連絡する。この内容を受けて、大会委員長から連絡のあった審判校は、主審1名、副審2名の計3名で試合会場へ行き、副審1名が申請のあった大学の的前審判(的前監査)業務を行う。黒板・点付け簿などは義務ではないので、試合の人数を優先すること。(平成18年度決定事項)

○試合の延期に関して

・新人戦のトーナメント形式という試合性質上、原則として翌週への試合の延期は認めない。但し、感染症の拡大や災害等により、全試合校の過半数を超える大学が試合不可となった場合に限り延期を認める。

・感染症等の理由で出場最低人数(5名)に満たなくなった場合は、当該校を不戦敗として扱う。

※出場不可となった場合は、事前に当該試合の試合校・審判校及び学連にご連絡下さい。

○遅刻に対する扱い

・規約第八十条二項に関し、「定刻」は集合時間を指すこととする。
・規約第八十条二項に関し、「正当な理由」の判断について、「正当な理由がない遅刻」は、基本的に「事前連絡がない場合の遅刻」をさす。事前連絡があった場合は、正当な理由かどうかを審判校、相手校との協議の上で決定する。判断がつかない場合は、学連本部に連絡し、指示に従うこと。(令和4年度決定事項)

※試合校が会場に遅れて到着する場合

- ・相手校、道場提供校、審判に連絡すること。
- ・学連本部には審判が連絡すること。
- ・連絡の際、試合校から詳しい理由を確認しておき、正確に報告すること。

・ホーム校、アウェイ校ともに集合時間は、各校が定める「お迎え」の時間とする。各校集合時間に遅れた場合、規約第八二条一項を適用することとする。

・前述の「遅刻に対する扱い」を参照のこと。

・その他対応に関して不明な点があれば学連本部に問い合わせること。

【正当な理由が無い場合】

・お迎えの時刻に遅刻した場合は、試合校・審判校との協議のうえ、当該校を棄権とすることができる。

・個人の遅刻に関しては、お迎えの時刻から 30 分以上の遅刻の場合は出場不可とし、30 分以内の遅刻の場合は出場可とする。

【正当な理由がある場合】

・当該校は、お迎えの時刻までに**試合校・審判校へ連絡**し、予想遅刻時刻を伝えること。予想遅刻時刻と延期基準時刻（1 時間）を照らし合わせ、以下の通り対処を決定する。

①1 時間以内の遅刻の場合

遅刻した時間分、タイムスケジュールをずらして試合を実施する。

②1 時間以上の遅刻の場合

試合翌日(月曜日)又は試合翌々日(火曜日)に延期する。

ただし、月曜日又は火曜日において、両校の都合が合わなかった場合は、遅刻した大学の不戦敗とする（トーナメント形式であること、及び次週の試合に先立って事前準備を行う必要上、それ以上の延期は困難である為）。

※道場提供校が集合時間に遅れて到着する場合

・集合時間は、各校が定める「お迎え」の時間とする。

・お迎えが集合時間に遅れた場合、道場提供校側の遅刻とし、規約第四七条に基づき罰則を科す場合がある。

※審判が会場に遅れて到着する場合

・審判校の集合時間は、各校が定める「お迎えの時間」とする。

・審判は集合時刻に遅れる場合、試合校、道場提供校に連絡すること。また審判の集合時間への遅刻とし、規約四七条に基づき罰則を科す場合がある。

・審判は試合開始時刻に遅れる場合、試合校、道場提供校、および学連本部に連絡すること。

・試合開始時刻に遅れた場合、試合校両校から各 1 名ずつ出して審判(主審・副審それぞれ 1 名)を行い、審判到着次第業務を引き継ぐ。

・試合が終了しても辿り着くことができなかった場合、各校 1 名ずつの審判と各校主将の立ち合いのもと結果送信フォームにて結果報告を行い、主審担当校が審判校に試合終了を、

副審が学連本部に試合終了を連絡する。

※正当な理由なく試合時刻に遅れた場合や正当な理由があっても連絡が無かった場合、審判の試合開始時刻への遅刻とし、規約第四八条一項に基づき、その審判の在籍校に懲戒処分がなされる。

○台風・暴風雨・地震の場合

・試合当日の午前5時時点で会場校地域に警報が発令されている場合は、試合を延期する。
・試合中に天候が悪化した場合又は地震が発生した場合は、審判と両校主将は3者協議を行い、試合再開または続行不可能、一時中断の判断を下す。続行不可能、一時中断と判断された場合は協議結果を至急、学連本部に審判が連絡する。特に強い地震が起こった場合、審判は選手が行射中であれば速やかに行射を止めるよう指示し、全員が身の安全の確保に徹すること。

VI. 各種 Google フォーム

・審判員登録フォーム

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfZ249IIG0jKnGB90UU_xyvrjyzVthxVAzBf3fEKCvRRM9PYg/viewform?usp=sf_link

※試合日の3日前までに回答をお願いいたします。

・結果報告フォーム（審判校のみ使用）

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSexAGvu7o9Jg4drz1y2vwZBQcx8GR76fV1oG5jj3lhTkAbOA/viewform?usp=sf_link

※結果報告フォームの記入は、試合終了後、審判校が行うこと。また、両試合校の代表者1名が立ち合い、記録に間違いがないか確認しながらフォームを記入すること。

・審判意見書送信フォーム（審判校のみ使用）

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScg9u6p2nEKc3TFTaz-MGxTw12SzMslxGWckJhTG0se64AVpA/viewform?usp=sf_link

※審判意見書は試合終了後、当日中に上記フォームへ回答を送信すること。